

令和4年度第1回高砂市環境保全協議会会議報告

日 時 令和4年 8月19日（金）
午後14時00分から午後15時30分まで

場 所 ユーアイ帆っとセンター 2階交流スペース6、7

出席者 別紙委員名簿のとおり（出席者29名、欠席者7名）
協議会設置要綱第6条第2項により会議成立（過半数）

会議内容

進行：環境政策課長

1 あいさつ

2 報告事項

（1）委員の委嘱について

副市長から代表として高砂市連合自治会の田中清之委員へ辞令を交付した。
環境保全担当係長が委員名簿【資料1】により、委員全員の名前を読み上げ、紹介を行った。副市長退席。

（2）役員の選出について

①会長・副会長

事務局案として会長に高砂市連合自治会の田中清之を、副会長に株式会社カネカ高砂後工業所信頼の環境安全センター長梶原基委員を環境保全担当係長が提案した。
<異議なし>

田中会長と、梶原副会長よりご挨拶。

進行：田中会長

②小委員会

環境保全担当係長が【資料3】により小委員会について説明した。
要綱第7条第3項にもとづき、田中会長、梶原副会長が委員になることを説明した。
他の委員について、事務局から委員を提案してよいか伺った。
<会長が会議に諮り、了承を得た。>

市民代表 3名 伊藤 定雄委員（高砂市消防団）
山口 光一委員（連合兵庫中南部地域協議会）
富士原 恵子委員（高砂市連合婦人会）
事業者代表 3名 西川 隆行委員（株式会社神戸製鋼所）
藤田 英博委員（AGC 株式会社）
中島 敏和委員（三菱重工業株式会社）
県職員 1名 松岡 智郁委員（東播磨県民局）
市職員 1名 谷井 寛（生活環境部長）
<異議なし>

（3）環境保全協定の履行状況について

環境政策課係長が、環境保全協定の履行状況について、【資料2】【資料4】により説明した。

<異議なし>

（4）その他

生活環境部長が【資料5】について説明。

<質疑応答>

【岩見明委員（高砂市議会建設環境経済常任委員会副委員長）】

ゼロカーボンシティ宣言について、2050年に二酸化炭素排出量を0%にする目標を掲げており、高砂市では2013年から2030年までに約46%二酸化炭素排出量を削減するという中間目標を掲げているが事業者にとって実現可能なのかどうか議論すべきではないのか。また今年度の実行計画書の作成についてどのようにして目標を設定するのか、どのようなロードマップを作成していくのかを考えるべきであり、それを市民に対して示していき、精査していくべきだと思われる。

【生活環境部長】

現在、高砂市が掲げる二酸化炭素排出量削減量の中間目標としては48%と定めている。2020年の二酸化炭素排出量削減量は20%となっており、産業部門、民生家庭部門等で削減しているところである。具体的な目標や数字については検討していき、資料提供という形で市民へ周知することを検討している。現在、事業者から二酸化炭素排出量削減についての課題や方向性について算出してもらっている。また、市内の事業者がどのように二酸化炭素排出量削減について取り組んでいるのかも発信していく。

環境保全担当係長が今後の予定について説明した。

第2回環境保全協議会については工場視察を含め、1～2月頃を考えている。それに伴い小委員会を第2回環境保全協議会の前に、開催しようと考えている。

<質疑なし>

<質疑応答>

【岩見明委員（高砂市議会建設環境経済常任委員会副委員長）】

ロードマップや実行計画はいつ頃までに完成し、委員会で報告することができるのか、また、事業者のゼロカーボンについての取り組みや課題は開示できるのか

【生活環境部長】

来年1月に産業部門、民生家庭部門等でどれくらい二酸化炭素排出量を削減しているのかが分かり、3月末までに素案が完成すると思われる。計画策定については地球温暖化地域協議会や環境審議会でも報告していく。事業者のゼロカーボンについての取り組みや課題についてはゼロカーボン推進協議会で開示していく予定である。

午後15時30分、解散。

以上